

春日神社



慶安2年（1649）大行院観宗（大蔵坊）が大畑八幡宮の鬼門を押さえるものとして建立。社殿は延宝2年（1674）に越前新保の上林屋與左衛門が寄進し西向きに建てられる。

元禄11年（1698）再建、宝永6年（1709）に焼失、正徳5年（1715）に建立、安永3年（1774）に修築、文化2年（1805）再建。この時に西向きから東向きに変えられている。江戸時代まで「春日大明神」と呼ばれていた。

明治になり神仏分離令により現在の「春日神社」となった。

鎮座地	むつ市大畑町湊村158番地	
祭神	天児屋根命 あめのこやねのみこと	日本神話に登場する神 出自についての記述はない。岩戸隠れの際、岩戸の前で祝詞を唱え、天照大神が岩戸を少し開いたときに太玉命とともに鏡を差し出した。天孫降臨の際ニニギに随伴し、忠臣連などの祖になったとされる。
	比売神 ひめかみ	
伝承 その他	春日神社の御神輿は、文化6年（1809）江戸で買い求め船で運んできた。その御神輿は二重の玉垣がめぐらされ、仙人の彫り物などもあり、豪華で華麗なものなので、田名部通り一番の素晴らしいものといわれた。そのため、文化11年、殿様にお見せするという事で差し出したところ、そのまま戻ってこなかった。三戸のどこかの神社にあるという噂であったが、確認できなかった。 昭和55年（1980）、ようやく三戸の「三戸大神宮（神明宮）」にあったのを捜しあてたのである。	